

2015 年度（平成 27 年度）  
自己評価報告書

2016 年（平成 28 年）9 月 1 日

学校法人 東杜学園  
国際マルチビジネス専門学校

## 目 次

1. 学校の現況	3
2. 評価の基本方針	6
3. 重点目標	7
4. 項目毎の記述	
(1) 教育理念・目標	9
(2) 学校運営	10
(3) 教育活動	11
(4) 学修成果	13
(5) 学生支援	14
(6) 教育環境	15
(7) 学生の受入れ募集	16
(8) 財務	17
(9) 法令等の遵守	18
(10) 社会貢献・地域貢献	19
(11) 国際交流	20

# 1. 学校の現況

## (1) 設置者及び学校名

設置者	学校法人 東杜学園
学校名	国際マルチビジネス専門学校
代表者	理事長 野口 友子

## (2) 所在地

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 8 番 32 号

## (3) 沿革

昭和 24 年 6 月	「宮城県経理友の会」会長 野口一郎（仙台商工会議所内に設置）
昭和 26 年 4 月	東北経理実務学校創立 開校（設置者 野口会計受託株式会社） 「校章」「校訓～五常訓（健康・誠実・節約・信義・研鑽）」制定
昭和 28 年 2 月	（学校設置者変更認可）財団法人 東北経理実務学園
昭和 31 年 9 月	創立 5 周年記念式典「校旗」「校歌」制定
昭和 36 年 4 月	創立 10 周年記念式典
昭和 38 年 7 月	（学校法人変更認可）学校法人 東北経理実務学園
昭和 46 年 9 月	創立 20 周年記念式典
昭和 48 年 10 月	（校名変更認可）東北経理専門学校

昭和 51 年 3 月	学校法人 東北経理学園 専修学校制度施行・昇格認可
昭和 56 年 10 月	創立 30 周年記念式典
平成 3 年 10 月	創立 40 周年記念式典
平成 6 年 3 月	(校名変更認可) 東北情報経理専門学校
平成 9 年 3 月	新校舎落成
平成 9 年 4 月	(法人名・校名変更認可) 学校法人 東杜学園 国際マルチビジネス専門学校 開校

現在に至る

#### (4) 学科編成

##### ①商業実務専門課程 昼間部 2年制

- ・国際観光学科
  - トラベル専攻
  - ユニバーサルツーリズム専攻
  - トラベル外国語専攻
- ・国際ホテル学科
  - ホテル専攻
  - 料飲サービス専攻
  - ホテル外国語専攻
- ・ブライダルビジネス学科
  - ブライダル専攻
  - ブライダルビューティー専攻
  - ドレスアドバイザー専攻
- ・販売ビジネス学科（平成27年度より名称変更）
  - 販売ビジネス専攻
  - ファッションビジネス専攻
  - ビジネス外国語専攻

##### ②商業実務専門課程 昼間部 1年制

- ・国際観光学科 トラベルキャリア専攻
- ・国際ホテル学科 ホテルキャリア専攻
- ・ブライダルビジネス学科 ブライダルキャリア専攻
- ・販売ビジネス学科 ビジネスキャリア専攻

#### (5) 学生数及び教職員数

在校生数	186名（2015年4月1日現在）
教職員数	83名（2015年4月1日現在）

#### (6) 学園理念

多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する

## 2. 評価の基本方針

- (1) 実践的な職業教育を行う教育機関としての責務、及び関係業界等のニーズに迅速且つ的確に対応し得る波及力、以上2つの視点について客観的な検証と評価を行う。
- (2) 評価については、定性的かつ定量的なデータを基に信頼性と妥当性のある結果の確保に努めるとともに、学園理念及び教育基本方針との照合を実施し、より質の高い職業教育が可能となるよう、学校運営の組織的かつ継続的な改善を図る。
- (3) 客観的且つ多面的な自己評価を実施することで、学校運営の更なる改善に努めることはもちろんのこと、実践的な職業教育の水準向上に努め、地域社会及び国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

### 3. 重点目標

#### (1) 重点項目

職業人前教育を担う教育機関としての専門学校的位置付け及び特色を意識し、時代を問わず社会より普遍的に求められる「専門性」・「社会性」・「人間性」の育成を目指す。

上記を達成する上で、以下4点の支柱を明示する。

- ①学生の積極的な学修参加
- ②退学の防止
- ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上
- ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

#### (2) 取組状況・成果

##### ①学生の積極的な学習参加

設置4学科全てにおいて、立案から実施までの全ての工程を学生が担当する実習制度を導入している。社会人として必要とされる「課題発見能力」及び「課題解決能力」の育成を主眼とするのみならず、課題遂行上不可欠となる「コミュニケーション能力」の向上など、「社会性」を学修する場ともなっている。

##### ②退学の防止

オープンキャンパス等において、専門学校の特長、教育理念、就職実績、そして授業料等について、細部に渡る説明を実施し、入学前のミスマッチの防止に努めている。

また、担任制の導入により、入学後に定期的な個人面談を実施。さらに、定期的な出欠率の確認と指導を徹底することで、学生の個別性の把握に努めている。

一方で、進路変更等が生じた場合は、休学及び転科を視野に入れた指導を実践することで、退学の防止に努めている。

### ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上

求人数の増加、早期からのキャリア教育、そして就職部職員ならびに各担任のきめ細かな指導が功を奏し、平成27年度卒業生の就職率においても前年同様100%となった。

年々変化する時代のニーズに応えるべく、教育水準の維持と向上を目指しながら、関連業界へ良質の労働力を提供し続けることを今後も目標とする。

### ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

年々深刻さを増す18歳人口の減少に加えて特出すべき事項の1つに、外国人留学生の増加がある。また、「語学力」を採用の絶対条件とする企業が増え続けている。社会に求められる人材の育成を担う教育機関として、外国語教育の拡充と外国人留学生の受入れ体制の確立は、より一層重要度を増している。

平成28年度より外国人留学生の受入れを開始し、平成29年度から総合英語学科及び日本語ビジネス学科を新設する。

## (3) 今後の課題

### ①人間教育の更なる充実

日々刻々と変化する社会情勢の中で、若年者を取り巻く環境は大きな変化を遂げている。学習環境はもちろんのこと、他者との結びつきや家族関係においても、世代間で大きな違いが存在する。

しかしながら、いつの時代も求められる資質の1つに、「コミュニケーション能力」があげられる。自己表現力や傾聴力等の基礎的な能力はもちろんのこと、「ホスピタリティ精神」、そして躰に代表される「社会人としてのマナー」、これら2つの要素を習得でき得る人間教育の更なる充実は、今後も大きな課題となる。

### ②外国人留学生の学修及び生活指導のシステム構築

外国人留学生の受入れ及び教育にとって、「多言語化」、「日本語力」、そして「外部との連携」は重要な項目といえる。入学案内書やホームページの多言語化、日本語力向上のためのカリキュラム、そして日本語学校等との連携等が、早急に取り組むべき課題である。



## 4. 項目毎の記述

### (1) 教育理念・目標

評 価 項 目	自己点検 評価結果
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

本学園において、「専門性」、「社会性」、及び「人間性」の3要素は、明確な教育理念と育成人材像のもと、徹底した指導を行っている。入学前のオープンキャンパスから入学後のオリエンテーションに至るまで、本学園の教育理念と育成人材像は十分な周知がなされている。

保護者についても同様に、オープンキャンパスならびに入学後年1回実施する保護者会において、周知徹底がなされている。

一方、2020年の東京オリンピック開催に代表されるように、近年のインバウンドの増加に伴う社会的貢献が必要とされる。観光産業における人材確保を念頭に置き、上記3要素に「語学力」を加えた4要素を兼ね備えた優れた人材を提供することが、今後の課題であると示唆される。

#### ②今後の改善方策

近年、特に首都圏の人事担当者様から寄せられる声の中に、「語学力」が挙げられる。これまで、企業の採用計画では、専門学校生に求められる資質として、「即戦力」を提示される傾向が強かった。しかしながら、この「即戦力」に加えて「語学力」を期待される企業様が増加している。本学園では、平成28年度より留学生の受入れ開始、そして平成29年度より総合英語学科の新設により、業界のニーズに応え得る学内環境を整えることが求められる。

## (2) 学校運営

評価項目	自己点検 評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

本学園の理事会にて決定された経営方針や事業計画に基づき、運営方針を策定し、業務を遂行している。就業規則等の諸規定については、適宜整備及び改定がなされている。

また、教育活動については教務部、学生募集については広報部、そしてその他事業計画立案については総務部が管轄しており、年次単位で学校事業の実施や見直しを行っている。

一方、学生の入学、在籍、そして卒業までの学生情報管理については、その最適化と効率化を図るため、システムを導入している。しかしながら、今後より学生情報の細分化が予想されるため、教職員研修等を検討する必要がある。

### ②今後の改善方策

各規定については、定期的な見直しを図られ整備されている。今後は、法令改正等に応じて、適正な改正と整備を加えていくよう柔軟な対応が望まれる。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己点検 評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

## ①課題

専修学校設置基準に則った教育課程の編成と授業時間の確保を前提として、毎年実施されている学科編成の見直し、そして半期毎のカリキュラムの見直し等、業界のニーズや在校生の学習状況に合わせた的確な対応がなされている。

C E P（業界支援プログラム）では、学生時代から現場での職業体験を可能としており、例年約7割の学生が卒業まで本プログラムを活用している。

資格取得等の指導体制については、専任講師の通常授業のみならず、授業時間外の個別指導や長期休暇中の特別講座など、万全の態勢を整えている。

授業評価については、これまでの不定期実施から年1回の実施に変更した。10項目で構成される質問紙と自由記述欄により、定量的かつ定性的なデータを収集し、各担当者へフィードバックを実施している。

教職員及び講師については、年1回実施される講師会にて本校の教育理念ならびに育成人材像が周知徹底されているため、教科指導のみならず生活指導にも注力している。

しかしながら、職員の能力開発を目的とした定期的な研修については、今年度も課題が残る。不定期での実施は存在するものの、計画的かつ定期的な実施はなされていない。

## ②今後の改善方策

新卒採用を目的とした企業との関わりは、年々増加傾向にある。その際、現在企業で求められる人材像について、多くの情報を得ることができる。社会のニーズに対応した人材の輩出を目的の1つとする専門学校として、外部との関係を強化しながら、関連分野における先端的な知識や技術を定期的に習得する場を設けることは、早急な対応が求められる。

このことについては、平成27年度に発足した教育課程編成委員会の委員からの評価を基に、計画的な研修参加を実現することが必要とされる。

#### (4) 学修成果

評 価 項 目	自己点検 評価結果
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

##### ①課題

平成27年度の求人数は、前年度を上回る結果となった。学生の選択肢が多様化する中で、個別性を重視したきめ細やかな対応により、年間約300件程度の就職支援を実施した結果、就職率は今年度も100%に至った。

資格取得については、担当者による指導はもちろんのこと、授業時間外での施設の開放、個別指導、そして土日祝日実施の講座等、取得率の向上に努めている。

しかしながら、学生数に関係なく例年一定の割合の学生が、退学をする傾向が現状として存在する。入学後の個別面談のみならず、保護者への注意喚起を実施するものの、金銭面の問題や入学前のミスマッチ等、学園が対応しかねる問題が存在することも否めない。

また、卒業生の追跡調査については、SNS等を通して直近5年間の情報は収集しているものの、個別での把握に留まっており、システム化までには至っていない。

##### ②今後の改善方策

専門学校の社会的意義、そして本学園の教育理念など、入学前に十分周知がなされているにもかかわらず、入学後数ヶ月でミスマッチを引き起こす学生は少なくない。この傾向は、年々顕著に表れている。このことは、世代性や社会情勢等、処々の問題が密接に関わり合っただけで生じるものであると示唆される。入学前及び入学後の本学園の対応については、今後も変わらず実施するとともに、学生と保護者との間での対話を強化していただくよう促していくことが求められる。

卒業生の追跡調査については、個別での把握は従来のまま、今後はシステム化するよう検討する。

## (5) 学生支援

評価項目	自己点検 評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生の支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

少人数制、担任制、及びカウンセラーの常駐など、学生支援は十分な体制が整えられている。また、本校独自の奨学金制度、学費分割納入制度、年1回の健康診断の実施、そしてCEPに至るまで、経済的支援、健康管理、及び課外活動に対する支援体制についても、きめ細かな対応がなされている。さらに、年1回の保護者会を実施することにより、保護者との距離を縮め、学生、学校、そして保護者の三位一体の連携体制を整えている。

しかしながら、高校・高等専修学校等との連携については、不定期での実施はあるものの、定期的な実施には至っておらず、課題が残る。

### ②今後の改善方策

体験授業、授業見学、そして職業理解等、高校生を対象とした連携は、現存している。今後は、高校・高等専修学校のニーズを探りながら、関連企業等と協力し、キャリア教育の一助となるべく対応を検討する必要がある。

## (6) 教育環境

評価項目	自己点検 評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

職業教育を実践する上で不可欠な要因の1つとして、実習がある。学科毎に実習室を設置しており、講義のみならず実習についても十分な時間数が確保されている。平成27年度では、国際観光学科の実習施設であるカウンター実習室のリニューアルを実施した。また、学習環境の更なる充実を図るため、館内の空調設備の総取り替えを施行した。

学外での実習施設については、1年次の海外学科別研修をはじめとして、各学科で校外学習を実施しており、様々な施設での実習が計画されている。

また、CEPによる実務体験、夏期及び冬期休暇を利用した短期間のインターンシップ、そして2年次早期現場実習を可能とする企業実習制度により、就業体験についても十分な体制が整えられている。

校内防災設備の点検については、法令に則って実施している。しかしながら、定期的な防災訓練計画は未整備の状態である。

### ②今後の改善方策

中・長期間でのインターンシップの実施については、関連業界へのヒアリングやカリキュラムの見直し等を行い、学内での慎重な審議を以て実施の有無を検討することが求められる。

防災訓練については、これまで以上の訓練や体制が求められる。具体的な改善方策としては、入学者全員へ配布する学生心得の中に防災訓練についての記載を盛り込み、入学時オリエンテーション時に周知徹底を行うことが考えられる。さらには、防災危機管理者の配置や防災備品の整備等、学園全体としての意識向上に努めることが望まれる。

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	自己点検 評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
学納金は妥当なものとなっているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

一教育機関として、本学園の特徴、資格取得実績、そして就職状況等、情報開示を徹底した上で学生募集活動を適正に行っている。近年では、オープンキャンパスや学外ガイダンスに加えて、SNSや動画サイトを駆使し、リアルタイムな情報提供を実践している。また、本学園では、学生の個別性と自主性を最重要視するといった理由から、AO入試を実施していない。

学納金については、仙台地区では平均的なものとして妥当な金額である。

留学生については、平成27年度より本格的な募集を開始した。さらには、平成29年度に、留学生を対象とした日本語ビジネス学科を新設し、よりグローバルな人材育成を目指す。

今後は、留学生対象ガイダンスで情報を収集し、受入れ体制を整えていくことが求められる。

### ②今後の改善方策

インバウンドやオリンピック開催等を踏まえ、留学生については早急な対応が求められる。現段階においても、新卒採用時に語学力を重視するばかりではなく、留学生の在籍確認を行う企業が増えている。関連業界へのヒアリングを強化するとともに、社会のニーズに応え得る学校作りを可能とするため、語学力を向上するカリキュラム、そして留学生の受入れ体制、これら2つについて検討することが望まれる。



## (8) 財務

評価項目	自己点検 評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

学校運営に関わる予算については、年度予算を編成し、評議員会において予算及び収支計画の妥当性を検討の上、理事会の承認を経て決定し、資金管理を行っている。

予算執行については、承認された各科目内において、理事長及び校長の承認のもと執行されている。

会計監査については、適正に行っており、理事会及び評議会において報告を行っている。本年度財務諸表を本学園ホームページ上に公開した。

今後の課題としては、少子化に伴う収入基盤の確保が挙げられる。

### ②今後の改善方策

社会のニーズに合わせた学生募集、退学防止、そして留学生の受入れ体制の確立等、安定した収入基盤確保のための具体的な方策があげられる。

### (9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己点検 評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

#### ①課題

法令及び専修学校設置基準を遵守し、申請、届出、及び報告等の諸手続きを確実にし、適正な学校運営を行っている。また、学校運営に必要な規則、規定、及び内規等を整備している。

個人情報については、就業規則内に個人情報保護規定を整備し、教職員への注意喚起の上、適切な管理を行っている。学生個人情報の収集の際は、その趣旨や目的を説明の上、承諾書を受け取っている。

自己評価については、平成27年度に自己評価委員会を設置し、本学園のホームページに結果を公開している。今後は、各項目の改善点について対策を進める。

#### ②今後の改善方策

平成27年度に設置された学校関係者評価委員会より評価をいただき、学校運営にあたっての内容の公表と改善について、継続的に取り組むものとする。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己点検 評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

平成27年度も引き続き、各種検定試験、国家試験、及び入学試験について、外部からの要請に応じて教室の貸出を行っている。サービス介助士講座については、本学園の在校生のみならず、一般受験者の方々も交え、学内にて実施された。

また、キャリア教育の視点から、小・中学校から授業見学の依頼をいただく機会が増し、都度対応している。高等学校においては、本学園講師を派遣し、特別講座等を実施した。

ボランティア活動については、従来通り献血及び地域清掃を実施した。献血については、例年約7割程度の学生が積極的に参加しており、関心の高さが伺える。

しかしながら、地域に対する公開講座や教育訓練の受託等については、本年度も実施がなく、課題が残る。

### ②今後の改善方策

職業教育としての専門学校のみならず、地域社会に向けた広義での教育機関として、その位置付けを再度検討することが求められる。知識と技術を地域社会へ還元する公開講座や、本校設置の各学科による地域貢献といったように、専門学校としての位置付けを柔軟に捉えていくことが今後の改善策と考えられる。

## (11) 国際交流

評価項目	自己点検 評価結果
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

### ①課題

平成27年度より留学生の募集開始、平成28年度から留学生の受入れ、そして平成29年度からは留学生のみの学科として日本語ビジネス学科を新設する。留学生の受入れ体制の確立に向けて、入国管理局の指導、出願資格の決定、及び関連業界との連携等、細部に渡り準備が進められている。

学習指導はもちろんのこと、様々な国民性や宗教等、多様化する価値観に対応し得る生活指導モデルを確立することが、今後の大きな課題といえる。

### ②今後の改善方策

本学園に対する留学生の進学目的については、日本国内での就業はもちろんのこと、母国への知的財産及び経験の還元といったように、多岐に渡ると予想される。より柔軟な対応を可能にするため、総合的なカリキュラムモデルの確立、専任教員の配置、そして就業先の確保等、関連業界と連携を密にする中で検討することが求められる。

また、日本の特長を理解し還元することができるよう、既存の学科の見直し及び強化といった点も、留学生の受入れ体制の確立には不可欠な要素となる。